

## 超音波検査センター

### 1. スタッフ

センター長（兼）教授 坂田 泰史

その他、病院教授 1 名、放射線部門技師長 1 名、主任臨床検査技師 2 名、主任診療放射線技師 1 名、副主任診療放射線技師 3 名、臨床検査技師 6 名（兼任を含む。）

### 2. 設立の経緯と目的

当センターは院内の超音波検査を中央部門で集約して行い、機器・検査要員の効率的運用及び検査の質の恒常的な維持を図ることを目的として、平成 18 年 9 月に発足した。発足当初は循環器内科、小児科による心エコー、放射線部による腹部エコーのみであったが、現在では消化器内科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、神経内科・脳卒中科などの医師の協力を得て、頸部血管エコー、甲状腺などの頸部エコー、末梢血管エコー、肝造影エコー検査なども当センターで施行されている。今後、乳腺、前立腺などの領域にも業務を拡大し、各科医師により施行されていた検査を当センターで行うことにより医師の業務軽減を目指す。

### 3. 検査体制

#### (1) 診療体制の概略

現在は、上記各科の医師の指導・協力のもとに医療技術部のスタッフが中心となって、1 階の頸部・腹部超音波検査室では、甲状腺、頸部血管、上腹部を中心に、2 階心臓超音波検査室では、心臓（成人、小児）の超音波検査を行っている。また 3 階にある血管超音波検査室では、末梢の動静脈超音波検査を行っている（次頁の表を参照）。得られた画像は動画を含めて全て PACS に保存されることにより院内端末から随時閲覧可能となっている。

(2) 当センターの保有する装置

1 階 頸部腹部超音波検査室 超音波装置 5 台

2 階 心臓超音波検査室 超音波装置 7 台

（リアルタイム三次元再構成可能な装置を含む。）

3 階 血管超音波検査室 超音波装置 1 台

(3) 教育、研究体制

各自が日常診療を通じて知識や技術を向上するとともに、非典型的症例を多くの目で検討することでさらに精度の高い診断を行うべく、指導医を含む医師、臨床検査技師による研修会やカンファレンスを定期的で開催している。

より高い知識と技術を身につけることを目指し、当センターに所属する技師各々が、自発的に学会などの開催するセミナー等を受講している。その際には、できるだけ広い領域の検査に精通できることを目指し、現在担当していない領域（臓器）の超音波検査に関する研修会にも参加している。これらの成果を活かし、より多くの領域での日本超音波医学会認定超音波検査士の資格取得を各検査技師が目指している。

大学病院であることを活かし、学術活動にも積極的に取り組んでいる。研究に専念する大学院生が配置され、学術集会で発表が行われている。

さらなる社会貢献を目指し、本院の高度な検査レベルを地域医療にも活かすべく、他院の研修医や臨床検査技師の本院における見学や教育にも積極的に協力し、学会などの主催する講習会の講師、ライブデモンストレーション検者をつとめている。また、本学の医学部学生、保健学科学生、あるいは社会人教育コースの受講生の教育にも寄与している。

超音波検査体制

		月	火	水	木	金
血管	午前	末梢動静脈	末梢動静脈	末梢動静脈	末梢動静脈	末梢動静脈
	午後	末梢動静脈	末梢動静脈	末梢動静脈	末梢動静脈	末梢動静脈
頸部・腹部	午前	腹部	腹部	腹部／造影 ／頸部血管	腹部／造影	腹部／頸部血管
	午後	腹部／頸部血管	腹部／頸部甲状腺 ／頸部甲状腺穿刺	腹部／造影 ／頸部血管	腹部／頸部甲状腺 ／頸部甲状腺穿刺	腹部／頸部血管
心臓	午前	心臓	心臓	心臓	心臓	心臓
	午後	心臓 経食道エコー	心臓	心臓／ 心臓（小児）	心臓／ 経食道エコー	心臓／ 心臓（小児）

4. 活動実績

平成 29 年度の検査実績を表 1、2、3 に示す。

表 1 平成 29 年度 頸部・腹部超音波検査室検査件数

上腹部超音波	6,159
上腹部超音波（消内）	217
上腹部超音波（ドプラ）	620
造影超音波	134
頸動脈超音波（神内）	128
頸部 IBS (脳卒セ限定)	278
頸部血管超音波	502
頸部超音波(耳鼻咽喉)	152
頸部超音波(全科)	1,105
計	9,295

表 2 平成 29 年度 2 階心臓超音波検査室検査件数

成人	6,510
小児	1,500
計	8,010

表 3 平成 29 年度 血管超音波検査室検査件数

動静脈エコー（下肢 その他）	1,602
血管病変ドプラ	9
計	1,611